

慢性活動性 EBV 病に対する同種造血幹細胞移植の有用性に関する検討

研究分担者：森毅彦 東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授

研究要旨

慢性活動性 EBV 病に対する根治療法として同種造血幹細胞移植は確立しているが、その移植方法は確立していない。また移植後の EBV 感染細胞の動向に関する検討も十分に行われていない。本研究では慢性活動性 EBV 病に対して同種造血幹細胞移植を施行した症例の移植前処置、前処置関連毒性、感染症や GVHD の発症とその重症度、移植後の血中 EBV 量の推移を検討して、移植の有用性と安全性を検討する。

A. 研究目的

慢性活動性 EBV 病に対する同種造血幹細胞移植の有用性と安全性を明らかにする。

B. 研究方法

当院にて慢性活動性 EBV 病に対して同種造血幹細胞移植を施行する症例の前処置関連毒性、感染症や GVHD の発症とその重症度、移植後の血中 EBV 量の推移を多数例で検討する。

C. 研究結果

現在、症例の蓄積を継続して、解析を進めている。

E. 考察

F. 結論

今後も症例の蓄積を継続していく

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

3. 一般向け講演会

該当なし

H. 知的財産権の出現・登録状況

1. 特許取得 該当なし

2. 実用新案登録 該当なし

3. その他